



## お江戸舟遊び瓦版 1116号

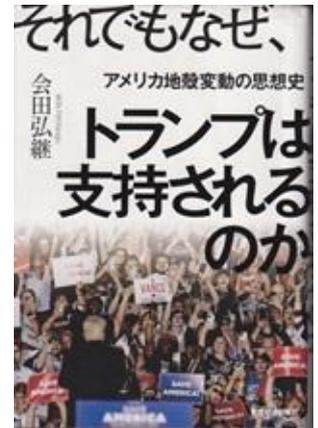
水彩都市江東 ころろ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり

お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

会田弘継 「それでもなぜ、トランプは支持されるのか」 東洋経済 24. 7. 23

### 序章 それでもなぜ、トランプは支持されるのか

- ・ 幸福な国はトランプを大統領に選んだりしない。絶望している国だから選んだのだ。人々はトランプを選ぶことで、政治家やエリートたちに向かって『クソ食らえ』と言っているのだと元 FOX のカールソンは言う。
- ・ トランプ支持者らがクリントン夫妻やオバマを蛇蝎のごとく嫌うのは、その「絶望」は二大政党が「共犯」となってもたらした結果だからだ。
- ・ アメリカ民主主義が抱える根本的な背景は、経済格差である。2023 年第 3 四半期の世帯資産を見ると上位 10% が全世界資産総計 66. 6% を占め、ジェフ・ベゾフ、ビル・ゲイツ、ウォーレン・バフェットの 3 人の富豪資産は、アメリカ国民の低位 50% の資産合計に並ぶ、おかしな国なのだ。
- ・ 資産のみならず学歴も世襲され固定化した階層社会が出来上がっているのだ。そこを這い上がれない低学歴白人労働者階級の間では、自殺、薬物中毒、過剰飲酒で死亡率が上がっている。
- ・ 民主党が高学歴で金持ちのエリートたちが支持する政党、共和党が労働者や農村部に暮らす人々が支持する政党になっていて、バイデン政権でますますその傾向が強まった。米政治は左右の分断の激化で混迷を深めているといわれるが、むしろ上下の分断が深刻なのである。
- ・ 大統領選挙の資金も、IT 系や金融業界の大口献金は民主党バイデンに集中し、共和党トランプ側は庶民の小口献金を集めて、それに対抗する構図になっている。2016 年大統領選では左右のポピュリズム、右にトランプ、左にサンダースの 2 大政党の本流ではない政治家が登場した。オバマ政権は民主党と癒着する金融資本の意向にとらわれて救済措置を怠ったといえる。プリンストン大学教授は、政治力と財力が集中した中で、民主党も共和党も金持ちだけの政治と批判する。



### 第 1 章 忘れ去られた異端者らの復権—トランプ政権誕生の思想史

- ・ この政治現象を「馬鹿げた」とは済ませられない。ニクソンやレーガンは労働者らに狙いを定めて支持者に取り込んだものの、政権を握ると彼らを見捨て、エリート支配階級に取り入れた。
- ・ トランプ現象は、①経済ナショナリズム、②国境管理、③アメリカ第一の視点で、国境を越えたグローバル社会で自己利益のみを追求するエリート・テクノクラート支配層を打破する運動だ。トランプ現象が目指しているものは「魂のない経営者階級の打破である」と知識人は結論する。トランプ現象の特徴は、文化的・社会的タブーを打ち壊す暴言が支持を固めている傾向にある。
- ・ 南北戦争勃発以前、奴隷所有の大農園主たちは財力を使って南部諸州ばかりか中央政界まで牛耳り、奴隷制を維持して利益をむさぼり、英国資本と結び、西半球一帯に拡張を狙う自由貿易主義者であった。これはちょうど不法移民の安い労働力を使って、人々の困惑もお構いなしに自己利益だけを図る今日の大企業経営者と同じと批判される。奴隷所有者は良心の呵責があったのに。
- ・ クリントン民主党政権は保守寄り路線で労働組合の抵抗に対しても金で片づけるという姿勢だった。こうした流れがもたらした矛盾の帰結が、今日の白人労働者階級の反乱である。
- ・ ニクソンの南部戦略後 40 年で、二大政党は支持者の構成を大きく変えた。荒廃していく地方に住む高卒以下で中絶や同性婚に反対する白人保守層は、民主党から共和党支持に鞍替えした。
- ・ しかし、アメリカの人種多様性は広がり、教育水準が上がり、共和党による民主党からの奪い取りは 2000 年代に逆転した。共和党が取り込んだ保守白人層は、党を牛耳る大企業とそのグロー

バル戦略に不信の目を向け、年金など社会保障の改革も嫌がった。

## 第2章 ジェームズ・バーナム思想とトランプ現象

- ・ トランプ政権誕生の過程で、忘却の底から突然のように蘇った思想家たちがいる。バーナムはその一人で、戦前の代表的トロッキストで、反スターリニズムから反共産主義へと独自の世界観を築いた。1939年スターリンのソ連はナチスドイツと不可侵条約を結び、ドイツとソ連がポーランドに侵攻、第2次世界大戦の火ぶたが切られた。バーナムはそれを批判し、トロッキズムと決別し、労働者支配の世界が来るというマルクスの理論を否定した。戦後は反響の闘士に転じた。
- ・ 2016年大統領予備選が始まり、トランプが破竹の勢いで勝ち進んで行くにつれ、バーナムの考えがメディアに取り上げられ始めた。エリート支配と彼らが目指す世界構造へのバーナムによる革新主義的な批判が、現代アメリカの民衆が抱く不満や不安にシンクロしたと理解される。

## 第3章 よみがえる「美しき敗者たち」

- ・ 2016年差別的言葉を乱発、リベラルが主唱の「政治的正しさ」を意に介さないトランプは、白人労働者らの熱狂的な支持となった。19世紀の奴隷制と近代化で争われた南北戦争の再来か？
- ・ 個人の欲望を原動力に繁栄を追求する産業社会は、奴隷制以上に残酷なシステムで、家族、共同体を重視する南部社会の家父長主義のもとに奴隷を保護する方が正しいと訴えたフィッツヒューの主張が反響してくる。カークでさえ、驕進するアメリカ近代を前に敗北感を抱き続けていた。

## 第4章 保守思想とアメリカ政治の現在——ポピュリズムとの相克

- ・ 2017年国連総会でトランプはグローバリゼーションで損なわれた「主権」の回復を演説した。サンダースは60代以上と30代以下の支持者分裂等、リベラル側はある種の破綻状況に陥った。
- ・ 20世紀中葉に欧州から多数の知識人がアメリカに移動し、米思想界は巨大な変化を遂げた。特に、ユダヤ系知識人の移動が大きく、戦後ドイツ系ユダヤ人は欧州に戻った者もいたが、東欧系は定着し、レオ・シュトラウスとアレクサンドル・コジュエフは21世紀まで見通した思想家だ。
- ・ ネオコンこそが20世紀後半の中核的な思想で、その核にユダヤ系移民二世がいる。帝政末期の迫害から逃れてアメリカにやってきた移民の子供たちだ。スターリニズムの現実を知りユダヤ系トロッキーに同情を寄せるようになり、リベラルな社会主義的政策を支持するようになった。
- ・ 1950年代から始まった保守思想がまとまり黄金時代を築いたのがレーガン政権だった。道徳的な価値観で巧みに誘導され、巨大な力を持つようになり、深いキリスト教信仰を持つ福音派が。
- ・ レーガン以降、冷戦に勝利した保守主義は、ソ連の崩壊によって混迷し、分裂の時代に入った。

## 第5章 トランプ政権の外交思想を考える

## 第6章 トランプ政権を取り囲む思想潮流

- ・ 中国の興隆やロシアの復権、2008年の金融危機、オバマ政権の縮減政策などで事態は悪化した。
- ・ アフガン・イラク軍事行動、リーマン危機で格差問題等の矛盾が噴出、トランプ政権が出現。

## 第7章 福音派はなぜ政治を動かせるのか

## 第8章 アメリカ白人社会の格差と病

- ・ 主要先進国で「宗教はとても大切」と答えるのは欧州では20%に対し、アメリカでは50%を超える。
- ・ 現在、民間部門の組合組織率は6%台、流通・サービス部門では福利厚生もない非正規就業者だ。
- ・ 近年、アメリカ経済は5倍に、企業利益は10倍に成長したが、普通の労働者は貧しくなっている。

## 第10章 トランプ現象は終わらない

## 第11章 アメリカに吹きすさぶポリコレの嵐

- ・ 2019年トランプの米軍シリア撤退に世界は啞然とした。安全保障戦略・同盟関係も不必要とも…。
- ・ オバマ政権下で凄まじいまでに拡大した格差社会進行の帰結が、トランプ政権登場である。

## 第12章 『ニューヨーク・タイムズ』が突き進んだ歴史歪曲

## 第13章 国民を分断する歴史教育と左翼意識の目覚め

## 第14章 バイデン政権が抱えた課題

## 第15章 ウクライナ侵攻の思想地政学

## 第16章 保守主義の精神出版70年

## 第17章 保守思想家ラッセル・カークと死者たち

## 第18章 近代史に見失われた共時性が貫く共同体

## 第19章 E・マクレランと江藤淳の『こころ』

所感：アメリカファーストを演じるトランプに、超階級社会を這いあがれない低学歴白人労働者は不満や怒りをぶつけているという。日本人ファーストを言う政党にも同様な想いがなく心配だ。誰も取り残さないSDGs精神を大切にしたい。北欧のような国を作り上げたい。（文責 中瀬）